
透明な罪状。

来夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

透明な罪状。

【Nコード】

N3754U

【作者名】

来夢

【あらすじ】

静雄を愛するあまり、静雄を殺してしまつ臨也。

グロクはありませんが、血が出る&狂愛注意です

お気に入りのナイフについた血を舐めとる。

大好きなシズちゃん、の血はまだほんのり暖かくて、甘いような気がした。

鮮やかな赤い色の血。

こんなに綺麗な真紅の血が数十分前までシズちゃんに流れていたんだと思うと興奮した。

こんなことで興奮してしまう自分はやはり狂っている。

目の前にあるシズちゃんの亡骸に視線を落とすと、綺麗な金髪の柔らかな髪に血がついてしまっていた。

このままも綺麗だけど、固まってしまう前に落としておいた方がいいと思い、水と櫛を使い、髪についた血を丁寧に落としていく。

血は完全に固まってなかったおかげで、簡単に落ちてゆく。

数十分前、俺はシズちゃんを殺した。

それは決してシズちゃんが嫌いだからとか、憎いからとか、そんな下らない負の感情からきたものではない。

シズちゃんが、好き、だから。

そう、俺はずっとシズちゃんのことを好きだったんだよ。

俺を睨むその鋭い目も、その茶色のかかった綺麗な瞳も、今綺麗にしている金髪の柔らかな髪も、俺を馬鹿にする低い声も、大きなその体も、全て、全て、大好きだった。

なのに、シズちゃんは俺のことなんか眼中になかった。

シズちゃんのサングラスの奥に写っていたのは、いつも弟の幽君だけだった。

俺はシズちゃんがこんなにも好きで愛しているのに、シズちゃんは

俺を愛してはくれなかった。
だから、殺した。

シズちゃんはこうやって黙って俺だけのものになればよかったんだよ。

そしてシズちゃんが俺だけのものになった　これでいいはずなのに、これが正解のはずなのに、何故か俺は苦しいままだった。

俺とは対照的な程よく筋肉のついた逞しい腕、白い白い頬、二度と持ち上がることはない瞼、そんなひとつひとつが全て輝いて見えた。
なのに。

もう俺のことをふざけたあだ名で呼んだり、本気で戦ったりする、
今まで当たり前にしてきたそんなことが出来なくなる　それがすごく寂しくて、苦しかった。

目の前に居るシズちゃんは俺のそんな愚かな行為を責めることもなかった。

寂しげに、笑った、まま。

シズちゃんが俺を攻めてくれた方が、何倍も、何十倍もよかったのに。

透明な、罪状。

(後書き)

読んでいただき、ありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3754u/>

透明な罪状。

2011年10月9日10時25分発行